

一球通信 vol.159

*****コンテンツ*****

1. 野球部現在の活動状況
2. 野球部 SNS (2年古川)
3. OB 便り

S54 飯塚様ご寄稿

1. 野球部現在の活動状況

8月25日午前に、大学から活動許可の通達を受け、**8月28日（金）より活動を再開**することが決定致しました。

3月初旬から5ヶ月強の長い休部期間を終え、いよいよ再開できることに大きな喜びを感じております。この期間は一人一人にとって野球や部活動について考え直す機会となり、良い面も悪い面も見直すことができたと考えています。実際に活動する中で個々の思いを組織作りに生かしていきます。

大学より、活動における時間制限と人数制限が課されているため、当面の間は部員を3グループに分け、時間帯別で活動を行う予定です。一般の方が学内へ入ることは制限されておりますので、練習見学等にご遠慮頂きたく、ご理解のほどお願い申し上げます。

また秋リーグの開催日程、形態につきましては現在調整中でございます。

OBOGの皆様からは、休止中も温かいお言葉やご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。ご声援に応えられるよう、部活ができる環境に改めて感謝しながら、日々の活動に取り組んで参ります。

今後ともご支援ご声援のほど宜しくお願い申し上げます。

2. 野球部 SNS

お世話になっております。2年マネージャーの古川です。

今回私からはInstagram、ツイッターなどのSNSについて報告させていただきます。部のツイッターは2011年からあるもので、主に試合情報などを通知しておりました。それに加えて昨年秋から一橋大学硬式野球部の存在をもっと様々な方に知っていただきたいという理由でInstagramを開設いたしました。Instagramは、ツイッターとは違い字数制限がなく、画像も10枚まで挿入出来るという利点があります。ツイッターとInstagramではそれぞれの利点があり、ツイッターではフォロワーも多いことから試合情報を載せることが多く、試合の勝敗などが、多くの方々にホームページを見なくても伝わるようになっていきたいと思います。

一方、Instagramでは試合情報だけでなく、いつも応援いただいている応援部さんとの交流会や年末に行った忘年会の様子など、試合以外での部員の活動も発信しています。ま

た、活動自粛の中でも硬式野球部の知名度を上げるため、新歓活動もかねていくつかインスタグラム内で企画を実施しています。7月からは部員座談会企画と新入生紹介を行いました。部員座談会企画は、ポジション別に zoom でテレビ通話を行い、いくつかの話題に沿って部員同士で話す企画です。各学年から 1~2 名程度での座談会だったということもあり、先輩や後輩の新しい一面を知ることができて、部員にとっても良い企画だったと考えています。

この企画を行うにあたって一番苦労したのはインスタグラム内での表記方法でした。文章が多すぎると読む気を無くしてしまうという部員の声を受け、インスタグラム内の文章欄に長々と座談会の内容を打ち込んでも、最後まで読まれる可能性は低く、その方法とは違う表記方法をどうするかという問題になりました。そのため解決法として、文章を画像として貼ることで、表示される文字の大きさを拡大し、読みやすくしました。

また、新たな企画を考えていますので、是非ご覧いただきたいです。



野球部インスタグラムの様子です！

現在はどの部活、サークルも SNS を使って宣伝活動をしています。アプリの登録が必要ではありますが、様々なコンテンツを配信予定ですので、ぜひご覧ください。

3. OB 便り (S54 卒 飯塚靖様)

令和の時代になると、「昭和は遠くなりにはけり」とも言えますが、大学卒業以来 41 年間も経過したことになります。当時の記憶が薄れていることもあります。他の方々のように、「野球部時代にこれを頑張ったから今日の私がある」というようなことは、残念ながら、私にはありません。現役の方には全く参考にならないかもしれませんが、とりとめのない昔話としてお聴きくだされば幸いです。

① 大学生活

当時、私の家は川崎市の海側にあり、大学までは電車とバスで片道 2 時間以上かかりました。1・2 年は小平、3・4 年は国立と 4 年間家から通いました。往復に 5 時間近くかけて、学業と野球を両立させるのは、正直難しいです。家の事情等もありますが、できれば寮か下宿が望ましかったと今にして思います。過酷な通学によって、忍耐力は鍛えられたかもしれませんが、学業は、要領重視でした。当時は年に 1 回期末試験があるだけという、今よりかなり楽な環境でした。もっとも厳しい科目やゼミもあったはずで、やる気のある人は、きっと困難な道を選んだことでしょう。学生（特に大学生）の本分は学業であり、全くそのとおりですが、時間とお金とやる気があれば、年を取っても何時でも勉強できます。（手前味噌で大変恐縮ですが、私は今、大学 3 校目です。）それに比べて、野球（大学野球）は、今しかできません。勉強しない言い訳にはいきませんが、今しかできないことに集中するのも一つの考え方だと思います。こういうことを書くと、それでは困りますと大学から文句を言われそうですが。

卒業後、5 年毎に大学の同窓会（如水会同期会）が開かれています。年を取るにつれて、大学時代が懐かしくなります。野球部の同期も強いつながりですが、それだけでは淋しい。その意味からも、入学時の語学クラスは大事です。同窓会のグループ分けが、入学時の語学クラス別になっているからです。それから寮生活。私はできませんでしたが、やはり寮で暮らした人の方が人脈の広がりがあるように感じます。勿論、地方出身者等遠方の方優先ですが、大学時代にできるだけ寮生活を体験されることをお勧めいたします。

大学生は、今も昔も、学業・クラブ活動・アルバイト・就職活動と多岐に亘って忙しいですが、やはり進路の問題は人生の重大事だと思います。現実的に就職するのが目標ですが、単に内定を早く、たくさん取れたらよいということではなく、自分に合った職業（仕事）を如何に見つけられるかが肝要です。古代ギリシア・デルフォイのアポロン神殿に書かれた箴言（しんげん）に、「汝自身を知れ」という言葉がありますが、この言葉にこそ耳を傾けるべきです。今風に言えば、「自己理解」が人間の生きる上での課題です。「自己覚知」とも言

います。当時は「キャリア教育」が全くなかったので、その意味も分かっていませんでした。就職という結果だけを安易に求めると、結局長続きせず、早期に辞めてしまうことにもなりかねません。自己理解+仕事理解（業界知識）によるマッチングですね。但し、実際に仕事をしてみないと分からないことも多く、自分の潜在的な能力も分かっていない部分が多いものです。最初から最適な仕事が見つかるのは、むしろまれなことかもしれません。そういう意味では、ある程度、「試行錯誤」も止むを得ないかなと感じます。

自分のキャリアというのは、就職する時にだけ、若い時にだけ考えるものではありません。小さい時から死ぬ時まで、人生を通じてずっと考えて行くものです。私自身も、まだ考えている途中です。「キャリア形成」と言うと、狭い意味では「職業形成」と捉えられますが、もっと大きく「人生形成」と捉えてもよいでしょう。如何に生きるか、どういう人生を送るかを考えることも「キャリア形成」なのだと思います。

野球においても自分を客観的に見つめ、「自己理解」ないし「自己覚知」して、自分の野球技術・能力を具体的にどのように伸ばすか（目標）を考え、実行する。キャリア形成の自己理解・自己覚知は、このように野球にも活かせるのではないかと思います。個人もそうですし、チーム全体もそうです。会社等組織の経営・運営もそうなのですが、いわゆるPDCAサイクルが大事になります。PLAN（計画）→DO（実行）→CHECK（評価）→ACTION（改善）の一連の流れで、このサイクルが延々と続きます。ポイントは具体的な目標を設定し、その目標達成のための具体的な方法を考えて、かつ実行することです。

② 野球部生活

野球部は基本的に上級生が引っ張る、学生監督であるにせよないにせよで、今と同じと言えば同じでした。自主性や自由があるというメリットもあれば、デメリットもあったと思います。要は、選手・マネージャー問わず、上級生から下級生まで、現役生全員が納得して取り組めればよいのではないのでしょうか？選手個々の体格、野球経験、資質・能力等、いろいろな世代で差があるので一概には言えませんが、昔よりも今の方がレベルは高いと思います。野球部運営にしても当時よりも進歩していると思います。但し、他校も我が校と同等若しくはそれ以上に進歩しているので、成績上、なかなか追い付かないというのが実情でしょう。現役だけの努力では無理で、卒業生のバックアップによる環境整備（向上）が望まれません。

今は硬式野球経験者が当たり前の時代ですが、昔は必ずしもそうではありませんでした。私自身、軟式野球経験者ですし、野球経験がない人も結構いました。大学体育会の硬式野球部ですから、世の中の的には、硬式野球経験者が前提のような所があると思いますし、他校との競争、成績を重視すれば、そうならざるを得ないでしょう。但し、我が校の場合、新入生の内の硬式野球経験者が少ない事情もあり、多様な人材を活かすという点は是非、残していただきたいと思います。

野球部の合宿について述べます。練習内容については、よく憶えていません。広商合宿(夏と冬)では、以前書かせていただきましたように、様々な示唆に富む練習がありました。それ以外では、国立の合宿所での合宿と千葉県富浦での合宿がありました。富浦に大学の古い合宿所があり、そこで1~2回、春合宿をした記憶があります。道路でのランニング、七面山の石段での上り下り、砂浜でのダッシュ・柔軟体操、OBのご尽力で貸していただいた館山の野球グラウンドでの練習等、記憶があります。特に七面山の石段は長くて、滅茶苦茶きつかったです。

合宿(主に国立の合宿所)での宴会は、飲酒について今ほどうるさくなかったのが楽しかったです。今では考えられないようなこともありました。一升瓶の回し呑みは、たくさん呑まされる下級生にとっては地獄でしたが、とにかく事故がなくてよかったです。よきに付け悪しきに付け、おおらかな時代だったのでしょう。今は、大変なことになりますので、法律は絶対に順守しましょう。

グラウンドがデコボコだったので、よくボールに当たり、痛かったです。内野は勿論ですが、外野もイレギュラーがありました。同級生の三塁手が顔面でボールを受けて倒れ、救急車が来て運ばれました。それこそテッと倒れたので、不謹慎ながら心配よりも笑いが先になりました。二塁へのベント・スライディングで右足首を骨折した同級生もいました。明らかに足首が腫れているのに、「大丈夫、大丈夫。動く、動く。」と言って、勝手に患部を動かしていた下級生がいました。後で同級生本人が泣いて訴えていました。またフリーバッティングの捕手をして、打球がワンバウンドで急所を直撃し、1週間練習を休んだ選手もいました。(私のことです。)痛くてその後、吐き気がしました。ファウル・カップ(股間カップ)は、全員付けた方がよいですね。

グラウンド外の話になりますが、国立は文教地区なので、あまり風紀上問題になるような所はありませんでした。パチンコ店もありませんでした。「みどり」という雀荘とビリヤード場を兼ねた店があり、よく利用されていた先輩方もいました。たしか「みどり」に一人娘が居て、かわいいとか、そうでもないとかが話題になったと思います。国立駅前に「みよし屋」という伝説的な居酒屋があつて、よく夜の部で野球部が利用いたしました。特に足繁く通われた先輩がいて、「みよし屋」の柱は、その先輩が立てたものだとまことしやかに語られたものです。

③ 広商がらみのエピソード

私が入学した年だと思いますが、春か秋かの神宮球場での東都大学野球リーグの開会式か閉会式かで、球場の外でチーム毎に並んで待っていた所、1部リーグ東洋大学の達川光男さん(広商出身)が、わざわざ4部の一橋の所まで挨拶に来られました。当時の4年生と挨拶を交わしていました。当時から如才なく愛想のよい方でした。近くに居た3部の大学の選手達が一体何事かと驚いていたのを昨日のこのように思い出します。

広商が夏の甲子園に出た年だと思いますが、秋の国体が茨城県で開催され、広商のチームが一橋の国立の合宿所に泊まって、一橋のグラウンドで練習したことがありました。勿論、畠山部長も来られていました。お昼は大学の学食を利用していただいたのですが、たしか広商の投手だったか中心選手だったと思います。学食の中で訳が分からずボーッと立っていた所、畠山先生が他の広商の選手達に向かって、「お〜い、誰か〇〇に知恵をつけてやってくれ！」とおっしゃった言い方が大変可笑しくて憶えています。他の選手達は、既に要領を呑みこんでいたのです。勿論、我々もやり方を教えてあげなければいけなかったのですが。件（くだん）の選手には、気を悪くされると思いますので大変申し訳ないのですが、畠山先生のユーモアがある点でしょう。

たしか広商の畠山部長からの依頼で、浪人生を2人、一橋の野球部で預かったことがありました。大学受験浪人中に身体がなまっちはいけないので、一橋の練習に参加させてほしいという依頼でした。2人とも広商出身ではなく、一人は広島県の崇徳高校の外野手（センター）、もう一人は茨城県の竜ヶ崎一校の内野手（ショート）だったと記憶しています。広商ではなく他校出身の選手だったという所も、畠山先生の面倒見がよい点ですね。お二人とも、名前を憶えていなくて大変申し訳ないですが、上手でした。外野手はキャッチングがものすごくソフトでしたし、打撃もパワフルかつ腕の使い方が柔らかかったです。内野手も股関節が柔らかいためか、すごく低い捕球態勢でした。折角一緒に練習していたのですから、もう少し長所を吸収できていればよかったなと思います。

これも畠山先生との思い出ですが、たしか冬の合宿でお世話になった時、広商の納会か何かで法華倶楽部に行った道中で、たまたま私が米大リーグの話をして、あちらの投手のパワーが如何にすごいかを力説していたら、畠山先生が「でも日本の投手の方が投げ方や身体の使い方は上手でしょう？」とおっしゃいました。ごもつともで、何も返す言葉がありませんでした。私も米大リーグに詳しい訳でも何でもなく、中学3年の時、ボルチモア・オリオールズが来日し、後樂園での巨人戦を観に行ったことがあったので、その時の印象を話したのだと思います。当時のオリオールズは、ワールドシリーズを制した程強く、20勝投手が4人もいて、かつ打線も強力でした。巨人は新浦投手が先発し、相手の少しこすった打球がホームランになって大変驚きました。日本の打者だったら、きっと外野フライの打球でした。今でこそ日本の球場も広がってきましたが、当時は狭く、米大リーグ選手が「鳥かご」と揶揄するのも仕方ないという感じでした。またキャッチボールからして、グラブで捕球したと思ったら、既にボールを右手に握り替えて持っていて、まるで手品でした。5→4→3のダブルプレーで、セカンドのキャッチング・スローイングは、まるで反射板のようでした。

大リーグ投手の上体に頼った投げ方に対して、日本の投手は下半身を使って身体全体のバランスで投げます。日本人の体格を考えると、理にかなった投げ方だと思います。その時は気が付きませんでした。日米のマウンドの硬さの違いや、ボールの違いも影響していたかもしれません。とにかく畠山先生は、身体全体を使うことや身体のバランスを重視されていました。また捕手の肩の強さと送球（スローイング）は違うともおっしゃっていました。

強肩であるに越したことはないですが、それを補えるのが送球（スローイング）であると。捕球→ミットを引きながら身体をねじってタメをつくる→起き上がる力を上から抑え込みながらタメを放つことで送球にパワーと低さを与える→目標（二塁）に向けてスナップを利かせる。捕球から送球までが一連の流れだと力説されていました。

以上

長文にもかかわらず、最後までお読みいただきまして、ありがとうございました。

今月も、一球通信をご覧頂き誠にありがとうございました。

気づけば恒例の24時間テレビが放送され夏の終わりを感じる一方、我々硬式野球部は春から始まらぬまま、全く活動できない異例の夏を過ごしました。皆様はどのような夏を過ごされましたでしょうか。

もどかしい日々でしたがいよいよ今週末より活動を再開致します。再開後は熱中症が危惧されますので、マネージャー一同熱中症の予防策や応急処置方法を確認し万全の体制で再開できるよう準備しています。選手もマネも食事睡眠などグラウンド外で調整できることにも、一層の注意を払いたいと思います。

秋リーグの詳細につきましては未定でございますが、まずは目の前の環境整備に一生懸命取り組んで参ります。

引き続き、硬式野球部へのご支援ご声援のほど宜しくお願い致します。

一橋大学硬式野球部

3年 浅川彩音

一橋大学硬式野球部公式ホームページはこちら↓

<http://jfn.josuikai.net/circles/sports/hit-u-bbc/>

ご意見・ご要望・配信停止等のご連絡等はこちらまで

hit.u.bbc.mg@gmail.com

硬式野球部ホームページ OBOG ページ パスワード hitbbc